

1-2-13-4 荏名神社神橋（えなじんじゃしんきょう）

附（ついたり）田中大秀筆設計図

<市指定建造物>

<所有者>荏名神社

<所在地>江名子町 1,290 番地

<時代>江戸時代

<員数>1 基、設計図 2 枚

橋（1 基）梁の長さ 4.3m、幅 2.05m

設計図（2 枚）①荏名神社大前石（おおまえいし）御橋勸進記

②荏名神社大前石 御橋之図 天保十五年十二月吉日

田中大秀敬白

国学者田中大秀の設計による橋で、石造の橋台と梁が残っている。橋台の上部から長形の石材を上方斜めに突き出し、この上に二層の梁を結合させ最上層に桁を渡したもので、桁は失われているが、撥橋（はねばし）として貴重なものである。この構造により橋桁をより短く、より高くすることができ、二層の梁石は階段状になる。橋脚はない。橋桁も最初は石材であった。全体の外観が幣帛（へいはく）の形に似ているので、御幣橋の俗称がある。

弘化 2 年（1845）9 月 5 日渡り初め。江名子村最高齢者間甚蔵夫婦が選ばれて渡り初めをした。天保 15 年（1844）12 月設計の図面が現存する。

リーフレットより